

尚5月28日の総務常任理事会に於て、碩心会から左記の方々が副部長に任命されました。

青少年副部長 加藤 岳 洵
許証副部長 中村 岳 郵
事務局次長 竹石 岳 泓
広報副部長 (新) 矢 嶋 悦 岳

◎ 行事のお知らせ

(第18回選抜者吟道大会)

とき・7月12日(日)

ところ・九段会館ホール

※碩心会から一色A鈴木葉風さん出吟。

(夏季吟道講座)

とき・7月25日(土)26日(日)

ところ・奥伝以上……九段会館ホール

初伝く六段…千代田区公会堂

碩心会 秋期審査会日時決定

審査会が左記の通り決定しました。八段位

までの受けられ方、今からがんばって!

とき・9月6日(日)

ところ・逗子市立図書館ホール

指導者吟道講座

とき・8月9日(日)9時受付

ところ・横須賀防大中講堂

第一時限 漢詩・感有り 中島岳湖先生
和歌・海

第二時限 新体詩・東照公御遺訓 常盤岳湘先生

第三時限 漢詩・胡隱君を尋ぬ 郡山岳昌先生
和歌・山路

第四時限 漢詩・江上吟 佐藤岳統先生

第五時限 (俳句・雪五尺・瘦蛙) 新田岳悠先生
第六時限 漢詩について 安孫子岳晴先生
(漢詩の吟じかた)

逗子市詩吟舞連盟

創立三十周年記念大会に参加

逗子A 綾部秋岳

五月二十四日(日)逗子市立図書館ホールに於

て右会が開催されました。雷の鳴る中、大会がどうなるかと案じながら会場に向ったところ、すでに役員の方々はほとんど見えていられ、舞台もすっかり出来上っていました。

雨も止み、定刻通り開会、会場は大勢の会員で満席になりました。プログラムにそって国歌斉唱、富士山の大会吟があり、会員吟詠にうつりました。立体吟は書華道と、今回始めて画道も加わり、ひととき大きな拍手がわきました。

式典に入り、理事長、市長他多数の方々から御挨拶を頂戴し、一番大切なのは「人の和」であるとお話がありました。

構成吟部「湘南を尋ぬ」の第一部は「湘南逗子の渚」と題して、佳香会からは「真白き富士の嶺」「舟艇守の尺八」他三題が、第一部は「静のおだまき」と題して、紫舟会が、「鎌倉」「静御前」他六題を舞いました。吟舞一体の詩舞にナレーターが入り、一段と興を添え、皆さんに見て、そして聞いていただきました。

又招待の方達の接待役を急遽決めてお手伝いをしていただき、スムーズに運んだことは大変よかったです。

日頃の練習の成果が遺憾なく発揮出来たことを皆様と共に喜び、大会も成功のうちに終り、日々のたゆまぬ努力を、これからも目標に向かって邁進しようと思えました。

沖繩本土復帰二十周年

南部戦蹟を訪ねて

中村 岳 愛

折しも五月十五日に沖繩本土復帰二十周年を迎えるという直前、忙しい合間をみて沖繩を訪ねました。サンゴ礁と紺碧の海と空…曇りも知らぬように観光客を迎えてくれる南国沖繩。でも「沖繩戦」という悲壮な事実があったということは忘れられません。

第一日目が南部戦蹟を訪ねるコースで、まず最初に、沖繩方面根拠地隊司令部のあった「旧海軍司令部壕」を訪ねました、司令官他多数の将兵が壮烈な最後を遂げ、壕内は当時のまゝ保存され、遙か故郷の妻子を案じつゝ、散華した幾多の将兵の嗚咽が今も聞えてくるような気がしました。

次に沖繩戦終焉の激戦地「摩文仁の丘」へ。緑の丘陵摩文仁丘一帯は、今は戦蹟公園となっているが、このあたりは無名の戦死者が最も多く出たところという。今は高台一帯が整備され、そこに日本各地の慰霊碑が思い思いの形で並んでおり、私達は「神奈川の塔」に黙祷を捧げました。目をとじると、戦死した

二人の兄の佛が浮んできて、胸いっぱいになり、涙がとめどなく出ました。

御霊安かれと祈りつゝ、牛島軍司令官と長参謀長を祀る「黎明の塔」へ。四月に米軍が上陸以来悪戦苦闘、奮闘したが、六月二十三日西中将は遂に自決し軍は壊滅、こゝで事実上沖繩戦は終りを告げたという。

又、摩文仁の麓には「健児の塔」があり、沖繩師範学校の校長他17名の職員と、生徒名が祀られていた。生徒達は鉄血勳皇師範隊を編成、戦ったが戦局は有利に運ばず、敵陣に斬りこみ、あるいは壕の中で自決し果てた。万感の思いを胸に、人々の紅涙をしばった「ひめゆりの塔」へ。私達詩吟愛好家にとつて、沖繩へ来たらず訪ねたいところ。県立第一高女生徒、沖繩女子師範生徒14名と職員15名が祀られている。従軍看護婦として、日本軍と行動を共にし、遂には追われ追われてこの壕に移り、敵軍の来襲に遭い、青酸カリをおおひ、又ダイナマイトで自決した者も数多く、遂には米軍のガス弾投下によって命を奪われたのであった。

岩枕 かたくもあらむ 安らかに
眠れとぞ祈る 学びの友は

と刻まれた純白の塔は、祖国の勝利をひたすら信じつゝ、若くして散っていった乙女達の姿を、痛ましくも彷彿と思ひ出させました。

ひめゆりの塔 逸名

連戦利あらず祖国危し

戦雲俄かに覆う沖繩の空

惨たるかな絶海の孤島

居民天を仰いで空拳を嘆く

忽ち聞く海空砲爆の轟

地は裂け山は砕けて島形改る

時に健なる哉学園の乙女

口唇固く結んで殉国を誓う

報国の純情は凝って鉄の如し

花顔織肢防戦に当る

鮮血は花を染め弾片飛ぶ

友は斃れ肌は裂けて心魂尽きたり

相抱き相擁して涙漣々

遙かに東天を拝して全員玉碎す

嗚呼春尚浅し桜花の蕾

天哭き地は泣いて風声潤う

哀痛限りなし姫百合の塔

可憐人をして千歳に泣かしむ

ブッソウゲの花は 血を吸って今も赤く燃えて咲くのであろうか……。

練吟

メモ

愛と技

○旅のつばくろ 淋しかないか

俺も淋しい サーカス暮し

とんぼ返りで 今年も暮れて

知らぬ他国の 花を見た

昭和前半、西條八十作詞、古賀政男作曲による懐しの「サーカスの唄」である。当時のサーカスは「多くの動物を使って、曲芸・かまわき軽業などを興行しながら各地を巡業する旅芸人の団体。曲馬団。(広辞苑)」であったが、華やかな中になんともいえず哀愁のただよったこの唄も、時代の流れでついに消滅した。

○この夏には、世界一を誇るカナダのサーカス団が来日する報道があった。動物を使わず人間の能力の極致を窮めた妙技を展開すること。苛酷な訓練の連続が想像されるがとレポーターの質問に答えた団長の言葉が素晴らしい。「技能より人間性です。高度なテクニックより、人間愛を基盤としなくてはサーカスは成立しない」と言い切っていた。なんととも言えない感動を覚えたので反省してみると、われわれの心の片隅にはレポーターと

同じ古いサーカス観があったからであろう。

○吟詠とサーカスを無理に結びつけようとする気持はない。しかし、最近教場や吟友の文章などに「吟技」という言葉がしきりに出ているところをみると、サーカスの「演技」(修練度は足もとにも及ばないが)と結びつけてもこじつけにはならないと思う。もちろん、岳風会の教本には吟技という語がないので、最近の一般吟詠界の風潮かも知れない。言葉じりを捕えるようだが、「吟技」は軽薄であり本末転倒である。教本には「詩吟は作詩者の気分を以て吟ずべく、その気分によって節調が生れるのである。故に之を朗吟する場合は、節調の如きは全く意に介せず吟じてその気分を味わうのである」と明確にうたっている。解釈に二通りはない。

○吟詠の世界に限らない。師範が師範の看板を誇り、古参者は古参の座にうごめき、弟子はひたすら無言と平伏を礼としていたのでは教場に人間愛など望むべくもない。祖宗範の説かれたように、先生も弟子もなく、皆で詩吟を勉強し研究しあえば、自身の修練はもとより、ひいては社会貢献につながるはず。それがまさにわが会員の信条なのではないか。

奥伝合格 (四月一日付)

左記(高齢者)二名の方が五月号奥伝合格欄に記載もれに付追記いたします。

348 平 信風 351 宮田花風

おめでとうございます。益々の御精進を。

(訂正)

5月号入会者⁶⁵²坂垣尚吾を板垣尚吾に

六月の出来ごと いまむかし

◇一九九一年六月三日 雲仙普賢岳の火砕流で43人が犠牲に

◇一九八九年六月四日 天安門事件(中国)

◇一九九一年六月十五日 ルソン島ピナツポ火山で今世紀最大の噴火(フィリピン)

◇一九六四年六月十六日 新潟地震で死者26人 全壊全焼二、二四〇戸等の被害

◇一九八九年六月二十四日 歌手 美空ひばり没

◇一九五九年六月二十五日 長島茂雄天覧試合で劇的サヨナラホームラン

◇一九四八年六月二十八日 福井で大地震、死者

三、七六九人